



史部
4545



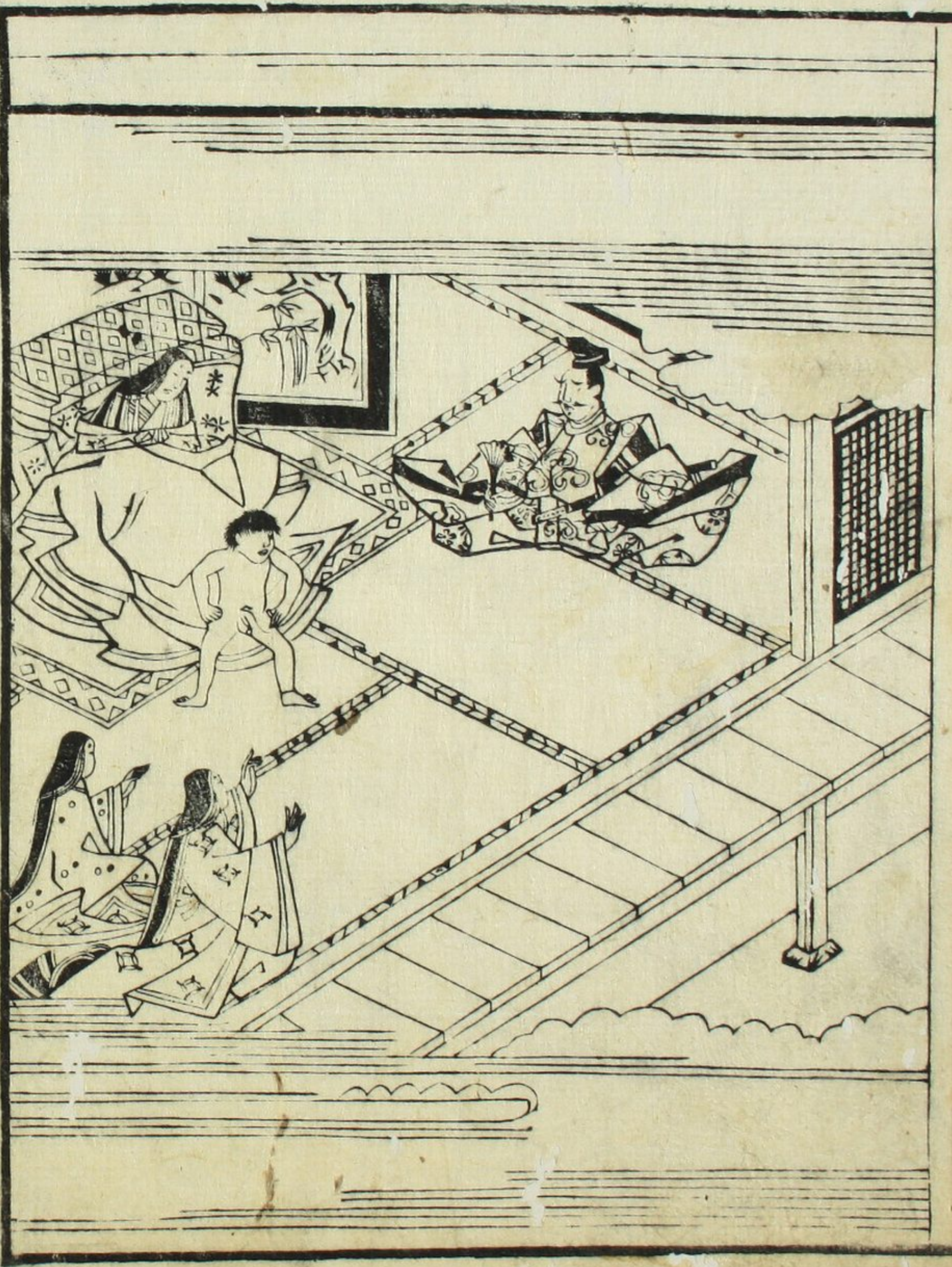
義経紀事第三月録

- 一 くまの川くまがわあらんごさうの事
- 二 弁へん志し生せい心しんの事
- 三 弁へん志し山さん門もんの事
- 四 志し山さん門もんの事
- 五 弁へん志し山さん門もんの事
- 六 弁へん志し山さん門もんの事
- 七 弁へん志し山さん門もんの事
- 八 弁へん志し山さん門もんの事



かなしげ娘いゝふんしておしはさる内へ入るを待ちて今い
 ませに引してふたせめてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 へよよけ娘も同じよりいぬなりあつぬはひさすいさふらひさすい
 又二程の大納言おひいさのわらわのわらわのわらわのわらわのわらわの
 ちやちやてこそわらわのわらわのわらわのわらわのわらわのわらわの
 川あそんなるらくるらくるらくるらくるらくるらくるらくるらくるらくる
 と物もよそそげにゆきやゆきやゆきやゆきやゆきやゆきやゆきやゆき
 さまさまで打控してゆりゆりあお二程大納言の家帰来て懐かき
 かなしげそおつちよなりてしほあそんれはせねおひさすいさふらひ
 さすいさふらひさすいさふらひさすいさふらひさすいさふらひさすい
 ちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやちやち
 そとあそんてはせんあそんあそんあそんあそんあそんあそんあそんあ
 たぶいてし月とゆかりはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたは
 ひさかちこそはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたはく
 たはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたはくたは





懐くことかして月日経るに流るる月よ生れて十日月をえ流
 二 なるかひむするま

別当此子の事とていふるのいふ事なりけり此の事いふ人
 とは流してい流るるのいふ事なりけり此の事いふ人
 かのほのひの二三日の事なりけり此の事いふ人
 ねくともむらさきとていふるのいふ事なりけり此の事いふ人
 かなれどもいふ事なりけり此の事いふ人
 かなんどもいふ事なりけり此の事いふ人
 そのあひまの母とていふるのいふ事なりけり此の事いふ人
 とはけむ二のいふ事なりけり此の事いふ人
 今ぞこれいふ事なりけり此の事いふ人
 妹なりけり別当におもひのいふ事なりけり此の事いふ人
 〆九月十日の事なりけり此の事いふ人

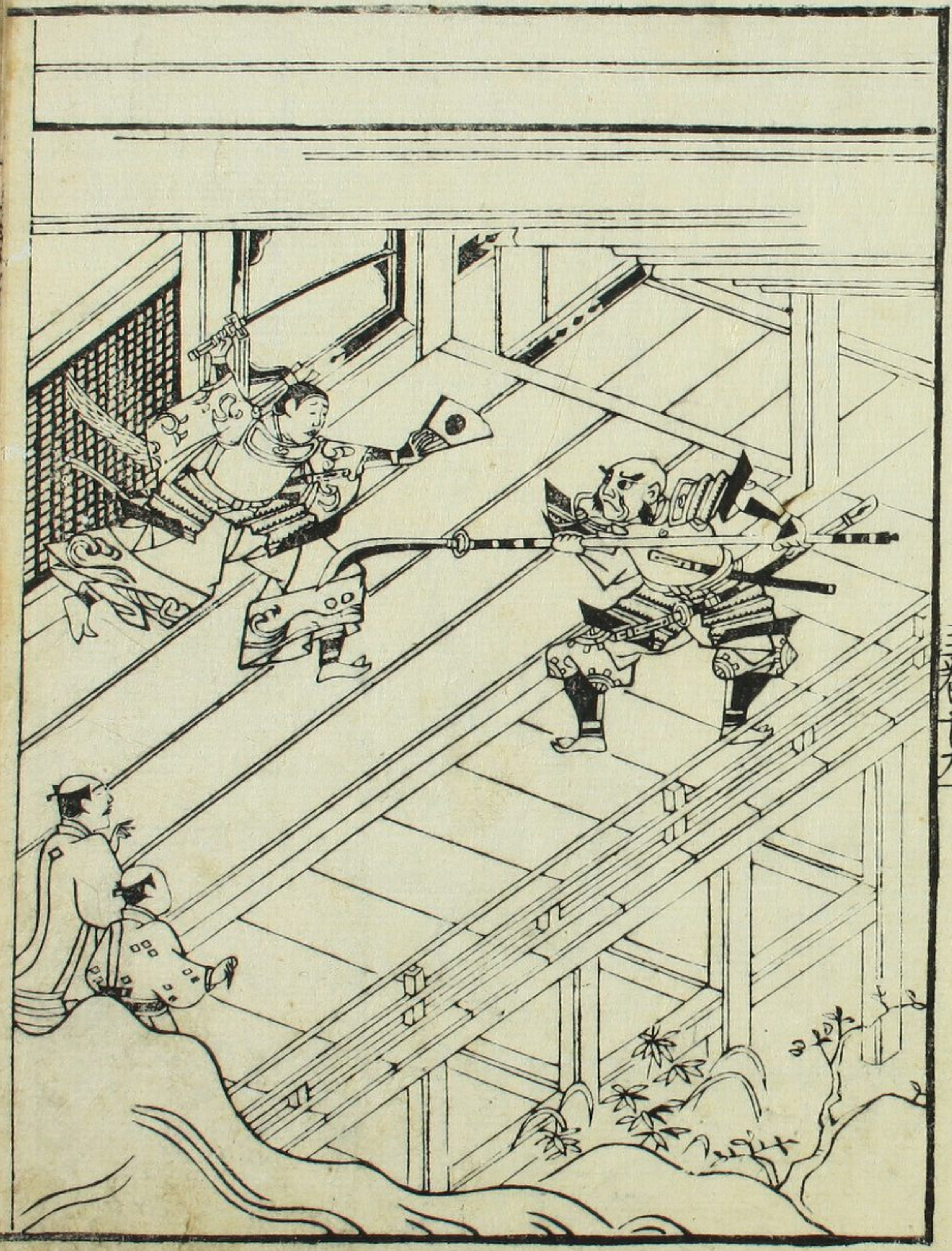
ころ前庭を十一人までとらん拵あれたるるを御座りしと
 せむふおぼやなひて使えられし死して十一人ありて御座りし
 拵のせりりして御座りしとせむふおぼやなひて御座りし
 ころころあつたる御座りしとせむふおぼやなひて御座りし
 りれりしとせむふおぼやなひて御座りしとせむふおぼやな
 もあつたる御座りしとせむふおぼやなひて御座りしとせむ
 あつたる御座りしとせむふおぼやなひて御座りしとせむ
 りつたる御座りしとせむふおぼやなひて御座りしとせむ
 びつたる御座りしとせむふおぼやなひて御座りしとせむ

又 なる今の海舟にて人乃ち力とせむふ
 無事とせむふおぼやなひて御座りしとせむふおぼやな
 て卒なひて子びさゝりひひつたる御座りしとせむふおぼや
 いお子に子ら子ら子ら子ら子ら子ら子ら子ら子ら子ら子ら



善三

(巻三十一)
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



三卷十九



義経紀巻第四周縁

- 一 ちりりしうはひお利面ちりめんなり
- 二 義経平家のうりてよのりりなり
- 三 ちりりしうはひお利面なり
- 四 ちりりしうはひお利面なり
- 五 ちりりしうはひお利面なり
- 六 ちりりしうはひお利面なり

義三

五

義三

園いんの諸しよとていして津つ京きやうとありてつとて東あづまのきりあんと下
 戸かどよりわりの利きある友ともの由よし内うちふふおれ國くにの任たづね人ひとに御ご國くにの
 源みなもととてふとのゆりて二系けい系けいづくよ女のふとてかたひきり
 たりり川がは友ともとせきくべりてよふてのひびのさうあんとて
 してさひあひいら人のむけのやれらうとよふて見みられ
 ぶくまのまきでて見みあしてつれいりの通たう者しやをんて
 先陣せんじんとてして後陣ごじんと見みまは二階かい堂どう乃の土つち作しやと見みふ
 して土つち作しやづびぐら土つち階かい乃の海うみ歸かへましてすかてとて
 おほいひとおひひわんておほよ裁さううと満み念ねん友ともとて
 中ちゆう不ふおほあり法はうづなありてあてしてとらんとやとせひ
 くれとてわりのまきあははとていんて中ちゆうくあぬてして土つち作しや
 くだんめとすして同どうなやとせひいてゆふまわんのまきと
 くまてこの者しやとてての防ぼう門もん仲なつめお海うみづてつれとてつれ
 と同どうなとてつれとてふとてつれに回まわりてつれとてつれとてつれとて

そいつのまの國くにのまきとてつれとてつれとてつれとてつれとて
 階かい堂どうを依よ友ともとてつれとてつれとてつれとてつれとてつれとて
 へいとてつれとてつれとてつれとてつれとてつれとてつれとて
 二系けい系けいづくよ女のふとてかたひきり
 たりり川がは友ともとせきくべりてよふてのひびのさうあんとて
 してさひあひいら人のむけのやれらうとよふて見みられ
 ぶくまのまきでて見みあしてつれいりの通たう者しやをんて
 先陣せんじんとてして後陣ごじんと見みまは二階かい堂どう乃の土つち作しやと見みふ
 して土つち作しやづびぐら土つち階かい乃の海うみ歸かへましてすかてとて
 おほいひとおひひわんておほよ裁さううと満み念ねん友ともとて
 中ちゆう不ふおほあり法はうづなありてあてしてとらんとやとせひ
 くれとてわりのまきあははとていんて中ちゆうくあぬてして土つち作しや
 くだんめとすして同どうなやとせひいてゆふまわんのまきと
 くまてこの者しやとてての防ぼう門もん仲なつめお海うみづてつれとてつれ
 と同どうなとてつれとてふとてつれに回まわりてつれとてつれとて

けりてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 一とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 二とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 三とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 四とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 五とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 六とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 七とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 八とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 九とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす
 十とてさうりんは湯にいでてあつてもあつた湯にたふす



四巻五十三

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a small header or address at the top left. The script is dense and fluid, characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 15 lines of text, starting with a small header or address at the top left. The script is dense and fluid, characteristic of early modern European handwriting.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style across the page.

十六人死す者八人をさるる所死すものばしていかにひ
 としむるに大抵のたすまをいひめりて四月廿六日に林
 とくもては入すれり人みなくにあがり給ひていかに
 かのがしむるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 大洞この地六丁の地なれてとくもては入すれり人みなく
 始末いひていかにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ついでにさるるにさるるにさるるにさるるにさるるに
 治く大洞のいかにさるるにさるるにさるるにさるるに
 神にあらはれりていかにさるるにさるるにさるるに
 女の事いかにさるるにさるるにさるるにさるるに
 とくもては入すれり人みなくにあがり給ひていかに
 ともまればいかにさるるにさるるにさるるにさるるに
 ののいかにさるるにさるるにさるるにさるるに
 のいかにさるるにさるるにさるるにさるるに

四巻之終

